

2018 わいぐ交流会

～おいらせ町訪問編～

去る平成30年7月13日、わいぐ交流会を開催しました。今年度はおいらせ町を訪問して、「アグリ」の里おいらせ」ビュッフェレストランでの昼食、そして園内を散策した後、桃川株式会社で酒蔵見学と試飲をしました。バス内での交流も含めて有意義な楽しい交流会となりました。交流会の様子をみなさんの感想とともにご紹介します。

37期(さんなな会)

朝の雨も食事会場に着く頃にはやみ、美味しいランチバイキングでした。桃川酒造見学では、酒作りの工程や、全国屈指の生産量である事等を学びました。団体自己紹介では、各団体の活発な活動を知ることが出来ました。

「アグリ」の里おいらせ」昼食で交流



ビュッフェ形式のレストランで昼食をとりながら楽しく歓談しました。

はちのへおもちゃ病院

「アグリ」の里おいらせ」での昼食がビュッフェ形式で好きな物を自由に食べられて美味しかったです。時間も1時間あったため、食事終了後も色々な話ができ、大変楽しく有意義でした。

はちのへ女性まちづくり塾生の会

美しい緑の風景を眺めながら施設に到着。たわわに実っている葡萄の下をくぐってレストランへ。順番待ちの大勢のお客さん。野菜市場に熱帯果樹園、小動物の飼育小屋。心地良い足湯を堪能して、桃川酒蔵へ。他の団体とたくさんお話ができて、とても充実した交流会でした。

バス内交流



バス内交流では、参加団体の紹介がありました。他の団体の活動内容はとても興味深い！

八戸国際交流協会

バスの中で、他参加団体代表の方の活動内容を聞く事ができ、有意義でした。初めて会う方とも「アグリ」の里おいらせ」で話をしたり、交流会を通じて良い経験ができました。

足湯で交流



時間がたっぷりあるので、足湯も堪能できました。浸かりながらのおしゃべりタイムです。

ハッピーダンス研究会

「アグリノ里おいらせ」は、新しく食堂や売店ができ立派になっていました。昼食はとてもおいしかったです。桃川酒造で一年間に製造する酒の量は、一升びんで並べると、桃川から福島まで並ぶということにびっくりしました。他の団体の話も聞けてとても楽しい交流会でした。

桃川株式会社の DVD 鑑賞



清酒はこうして作られてるんだね。
とても手間と時間がかかっています。

桃川株式会社で酒蔵見学



お酒の香りが漂う中、清酒の製造工程を聞きながら、酒蔵の見学をしました。

八戸市食生活改善推進員協議会

初めての交流会への参加。各団体の活動内容紹介の中で、活動内容の周知の必要性や会員不足の課題など、各団体の願いや課題は共通していると感じました。アグリノ里でお腹一杯ランチをいただき、酒造会社の見学と試飲。おいらせ訪問を満喫しました。

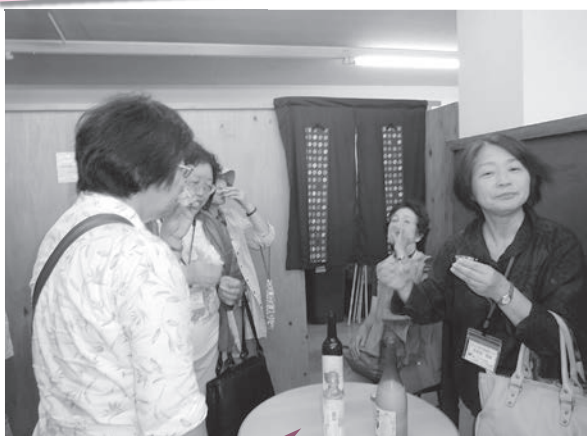


あおもり県民カレッジ三八学友会

新しい形の交流会でした。食事や試飲などは人間共通の楽しみなので気持ちがオープンになり、初めての人とも親近感をもって話ができ、参加して良かったと思っています。次回も楽しみにしています。



試飲で交流



試飲をさせてもらいました。種類がたくさんあって、試しているうちに酔っぱらっちゃった。

八戸さんぽマイスター

八戸さんぽマイスターとして初めて参加させていただきました。桃川の見学では、案内の仕方、話し方等、大変参考になりました。おいしい食事をいただき、特産物の買い物をして楽しい一日になりました。

次回のわいぐ交流会は
12月9日(日)です。
是非ご参加ください!!

市民活動に生きる

～我々の信条と目標～

第18回 福田 まり子 氏

好奇心
福田まり子



【連絡先】
名勝種差海岸
鯨町の自然を守る会
TEL・FAX 0178-34-3328
事務局：窪田

自分の事

出生時は父の勤務の都合で市外におりましたが、父の故郷である八戸に戻ってからずっと鯨町に住んでいます。自身のことは「多趣味」だと思っています。言葉を変えれば「野次馬」でしょうか。いろいろなことに興味が湧き、ひとつの事をとことん追求することよりも、広く浅くたくさんの方に関わることを楽しんでいます。メインとしている活動は、内容が名前の通り「名勝種差海岸 鯨町の自然を守る会」です。

他にも、子どもが小・中学生の時、PTA 役員として活動していましたが、卒業後にも PTA のOB 会として結成された「紅樹会（こうじゅかい）」で「独立行政法人 国立行政機構 八戸病院」へ出向き、訪問ボランティア活動を行っておりました。

「名勝種差海岸 鯨町の自然を守る会」の活動をはじめたきっかけ

20 年前、鯨町の花や木が盗掘によって減ってしまい、危機的状況になっていることを新聞で知りました。私が中学生の頃は、登校の道すがら咲いているスズランに季節を感じたもので

したが、今はどこを探しても見つけられなくなっていると感じていました。日に日にスズランだけでなく、貴重な花や種差の自然を守りたいという気持ちが強くなりました。その地を好んで咲く花は、そこで咲くから景色に映えて美しいのです。そこで、鯨町振興会、鯨町観光協会、鯨連合町内会の協力を得て、鯨町民の有志 22 名で「鯨町の自然を守る会」を発足しました。私自身は発足当時から関わっております。現在は八戸市内、市外からの会員 60 名で活動しています。4 班に分かれ月に 4 回程度巡回し開花や被害状況の記録をつけていますが、花や木の盗掘は未だに後を絶ちません。



～鯨公民館「自然観察教室」参加者の皆さんと～

苦勞した事・嬉しかった事

苦勞したのは、東日本大震災の津波と、その5年前の大時化（おおしけ）の時です。波で崩れた遊歩道を歩きやすくしたり、流れ着いたゴミを撤去したりとの自然災害からの立て直しが大変でした。最初の頃に比べると不法投棄などはだいぶ少なくなりました。

また、現在も苦勞している事として、会員数の減少があります。高齢化で活動も難しくなってきたので、公民館で写真展などのPR活動も行っていますが、入会を希望する方が少ないのが現状です。

嬉しかった事は、この会の活動が環境省から認められ、大臣賞を受賞したことです。会員の一心が認められたと感激しました。個人的に嬉しかったのは、見たことがない珍しい花に出会った時や、数年に1度しか咲かない花、または絶滅したと思っていた花が咲いたことと、減少していた花が増えてきたことです。津波の後、元の景観に戻そうということで、松の木を伐採していますが、日当たりが良くなって無くなってしまった花もある代わりに、黒松の林にクゲヌマラン（大変貴重な花）が7年ぶりに咲いたのを見た時はとても嬉しかったです。

他団体との連携

特定非営利活動法人 ACTY と連携して種差海岸インフォメーションセンターの企画に協力し、遊歩道を案内するお手伝いもあります。鮫小学校などの学校行事である自然観察教室のお手伝いで、子どもたちに貴重な植物を紹介しましたが、大人になった時に少しでも印象に残っていればいいなと思っています。

皆さんに伝えたい事

県の自然保護課が配布する「採らない! 折らない! 踏み込まない!」のパンフレットを子どもたちや観光客に配って啓発活動に努めています。鮫町を観光資源として活用することはいいことだと思いますが、ルールを守ってほしいと思います。高山植物、亜高山植物、海浜植物など、貴重な植物を、歩きながら間近で見られることが種差の魅力なのですが、花々に近づいたり、写真を撮りたいからと遊歩道を踏み出してしまうことで、次に咲こうとしている花の芽を

踏みつけてしまいます。そこで、遊歩道からは踏み出さずに花々を楽しんでくれることを呼びかけています。身近なところにこんなにすばらしい所があること、ここはみんなの物だという気持ちを持っていただき、大事にしてほしいと思います。



～鮫小学校5年生と「自然観察教室」の様子～

「わいく」との関わりとこれからの活動

ボランティアフェスティバルに参加して活動の新聞を配ったり、交流会に参加して活動をPRしたりしています。現在活動資金は、年会費などで賄っていますので、これからはわいくで助成金の情報などを見たいと思います。

私は生涯この会を、この活動を続けていこうと思います。保全、保護の活動にはたくさんの方の協力が必要で、特に、若い男性の方に協力してもらいたいと思っています。今年の11月にはポータルミュージアムはっちで写真展を開催することになりました。四季を通して種差の花が美しいことを多くの方に知ってほしいです。花の種類は年々増え、650～700種類が確認できます。八戸にいと芝生の草むらの中にニホンタンポポが咲いていることを普通のことと思ってしまうがちですが、私はそれを「自然がある」というバロメーターだと感じました。花と出会ってこんなに素晴らしい所はない、種差をみんなで楽しんでほしいと思います。

● 必携の品 ●

毎回の活動に欠かせない「植物観察・保護巡回記録」。これによって保護情報を記録・管理しています。





都市は大きく変化している。それは10数年前の、東北新幹線開通以降からで、この新幹線効果が、八戸に恵みをもたらしたことは明らかだ。

私はガイドもしているから分かるが、まずホテルが急増しマンションも増えた。これにより平面な街並みが高層型に変わりつつある。同様にビジネス、観光客が多くなり昼、夜の賑わいが生まれた。それに何といても中心街の観光交流施設「はっち」効果も大きい。更にガラス張りの「マチニワ」(八戸まちなか広場)も、憩える市民を引きつけ、屋台村や横丁への流れもよくした。

つまり「マチニワ」は、三日町と六日町を結ぶプロムナードとして機能し、話題の「ブックセンター」も有ることから文化観光の拠点性も生じた。

また、「はっち」、「マチニワ」はガラス張りの建物なので、夕方から夜の魅力を生み出し、特に春、夏、秋は季節的にも過ごしやすい時間をつくれそうだ。

今後の八戸は新美術館、屋内スケート場、保健センターの整備でハード事業は一段落する。それに伴い必要なのは若年層の雇用の確保と、元気な中高齢者のボランティアなど含めた人材の確保。人口減少化だけに、広域圏での連携を大切にしながら、都市の衰退ではなく、発展的未来を拓いてゆかなければならない。

わいぐの活動報告

市民活動サポート・カフェ



5月22日(火)～5月24日(木)の3日間開催しました。参加団体は12団体でした。

ボランティア&市民活動講座



ビギナー編は6月7日(木)と6月12日(火)、ステップアップ編は6月14日(木)に開催しました。

わいぐ交流会 おいらせ町訪問編



7月13日(金)開催しました。15団体37名が参加しました。(2～3Pの特集をご覧ください。)

市民活動団体パネル展



7月30日(月)～8月3日(金)八戸市庁、8月4日(土)～8月17日(金)総合福祉会館にて開催しました。

新しく仲間入り! 登録団体紹介

八戸さんぽマイスター

八戸さんぽマイスターは5つのコースを会員数22名のガイドで対応しております。約1年で外国からのお客様を含む、150人以上のお客様をガイドさせていただきました。また、横丁紹介のテレビ番組へガイド役での出演などもありました。私たちは駆け出しですが、プロ集団。「八戸さんぽマイスター」といっしょに、まちを歩いてみませんか?

それでは各コースの紹介です。

1. はちのへ横丁 “通りやあんせ”

～酒場通りにのこるふしぎ～

夜の帳(とばり)が降りる頃、八戸の横丁に明かりが灯る……そんな時間に見えてくる横丁のふしぎな光景を、ご案内します。

2. ～めつけろほやし～ プラカラ八戸横丁めぐり

個性豊かな案内人が、8つの横丁に隠れているキャラクターを探しながら、初心者にも優しい“八戸横丁流”を指南します。

3. イサバぐれっとさんぽ こだわりの味めぐり

陸奥湊には、こだわりの味の名店がいっぱい。そんな名店の商品を片手に買い食いしながら“ぐれっと(ぐるっと)”巡るコースです。

4. ヒト・マチ・カダル

あなたと地元の人を結びます

初めてなのに、どこか懐かしい そんな陸奥湊の人々と暮らしぶりに密着できるコースです。南部弁を身近に感じてください。



5. 館鼻岸壁朝市攻略大作戦!

日曜の朝にだけ現れる、日本最大級の「館鼻岸壁朝市」の楽しみ方をガイドがご案内するプランです!

私たちはこれからも、八戸の魅力を紹介する為に会員全員で努力してゆこうと思っております。Facebookページも開設しておりますので、是非ご覧ください。

→(「八戸さんぽマイスター facebook」で検索)

【問合わせ先】

八戸さんぽマイスター事務局

TEL 090-3364-8606 (吉水)

【まちあるきのお申込み先】

「はちのへ Local旅」で検索

(八戸観光コンベンション協会 HP 内で受付)

～わいぐの魅力～

八戸市をはじめ近隣地域の様々な団体が登録しているので、自分達が求める団体を探す時に役立ちます。

わいぐライブラリ

わいぐでは、市民活動に役立つ書籍を設置しております。スタッフお勧めをご紹介します。

ばっちゃん

～子どもたちの居場所。広島のマザー・テレサ～



著) 伊集院要・中本忠子
出版) 扶桑社

大反響を呼んだNHKスペシャル「ばっちゃん～子どもたちの立ち直る居場所～」、待望の書籍化。

子ども食堂をつくらう!

～人がつながる地域の居場所づくり～



編集) NPO法人豊島子ども
WAKUWAKU ネットワーク
出版) 明石書店

全国各地でオープンが相次ぐ子ども食堂。この本では、立ち上げ準備から運営のコツまで、先輩子ども食堂の体験談を交えながら紹介。



【助成金情報】

市制施行 90 周年記念事業 はちのへ市民チャレンジ応援補助金

●募集期間

平成 30 年 9 月 20 日(木)～11 月 20 日(火) ※必着

●対象団体

市内で活動する市民活動団体、地域コミュニティ活動団体、事業者等で次の全てにあてはまる団体等。

- (1)構成員、従業員が 5 人以上であること
- (2)団体、事業者の意思を決定し、執行する組織が確立されていること
- (3)主たる活動地域・拠点、事業所が八戸市内であること
- (4)法人の場合、法人市民税・固定資産税・軽自動車税を滞納していないこと
- (5)公共の利益に反する行為を行わない団体であること

●対象事業

平成 31 年度中に自主的に行われる公益性のあるまちづくり活動に関する事業で次のいずれかのテーマに該当するもの。※営利のみを目的とする事業・政治活動または宗教活動事業等を除く。

- (1)八戸市の発展に貢献された先人の功績を讃えるもの

- (2)八戸市の直近 10 年間の歩みを振り返るもの
- (3)八戸市の魅力を確認・再発見するもの
- (4)八戸市の更なる飛躍や発展が期待されるもの

●補助金額等

- ・法人格を有しないもの(限度額 50 万円)
→補助対象経費の 100%
- ・法人格を有するもの(限度額 500 万円)
→補助対象経費が 50 万円以内の場合は補助対象経費の 100%、補助対象経費が 50 万円を超えるものは 50 万円+超える額の 50%

※対象となる経費は、対象事業を実施するために、直接必要と認められる経費で、平成 31 年 4 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日までの期間に支出される経費

【問い合わせ】

八戸市 総合政策部 市民連携推進課
〒031-8686 八戸市内丸 1-1-1(市庁本館 4 階)
電話 0178-43-9207 FAX 0178-47-1485
下記 URL より募集要項・提案書等がダウンロードできます。
<http://www.city.hachinohe.aomori.jp/index.cfm/9,96736,19,166.html>

「八戸さんぽマイスター」からの一言マメ知識!

【私たちが考える「観光」について】

「観光」とは、場所・物・人・言葉・食べ物・文化、そこから生まれる副産物などが、様々に絡み合っており成り立っていると考えています。それらの情報は今や簡単に手に入るような気がしますが、それはあくまで発信されているものに限り、検索できない情報は数知れずあるのです。そこを穴埋めするのが、私たち「八戸さんぽマイスター」のようなまちあるきガイドの役目だと思っています。日頃から些細な事を見逃さないようにしながら、観光について勉強しています。これをご覧いただいている皆様とも何かの機会にご一緒できれば幸いです。

